

Panasonic NPOサポートファンド
子ども分野
2012年助成事業 成果報告会

発達障害児の治療教育・相談活動
に携わる若手専門家の育成

特定非営利活動法人 銀杏の会

当法人の活動の概要

発達に遅れや偏りのある子ども
(自閉症など)の治療教育・家族相談の場を
運営する団体
スタッフは臨床心理士が中心

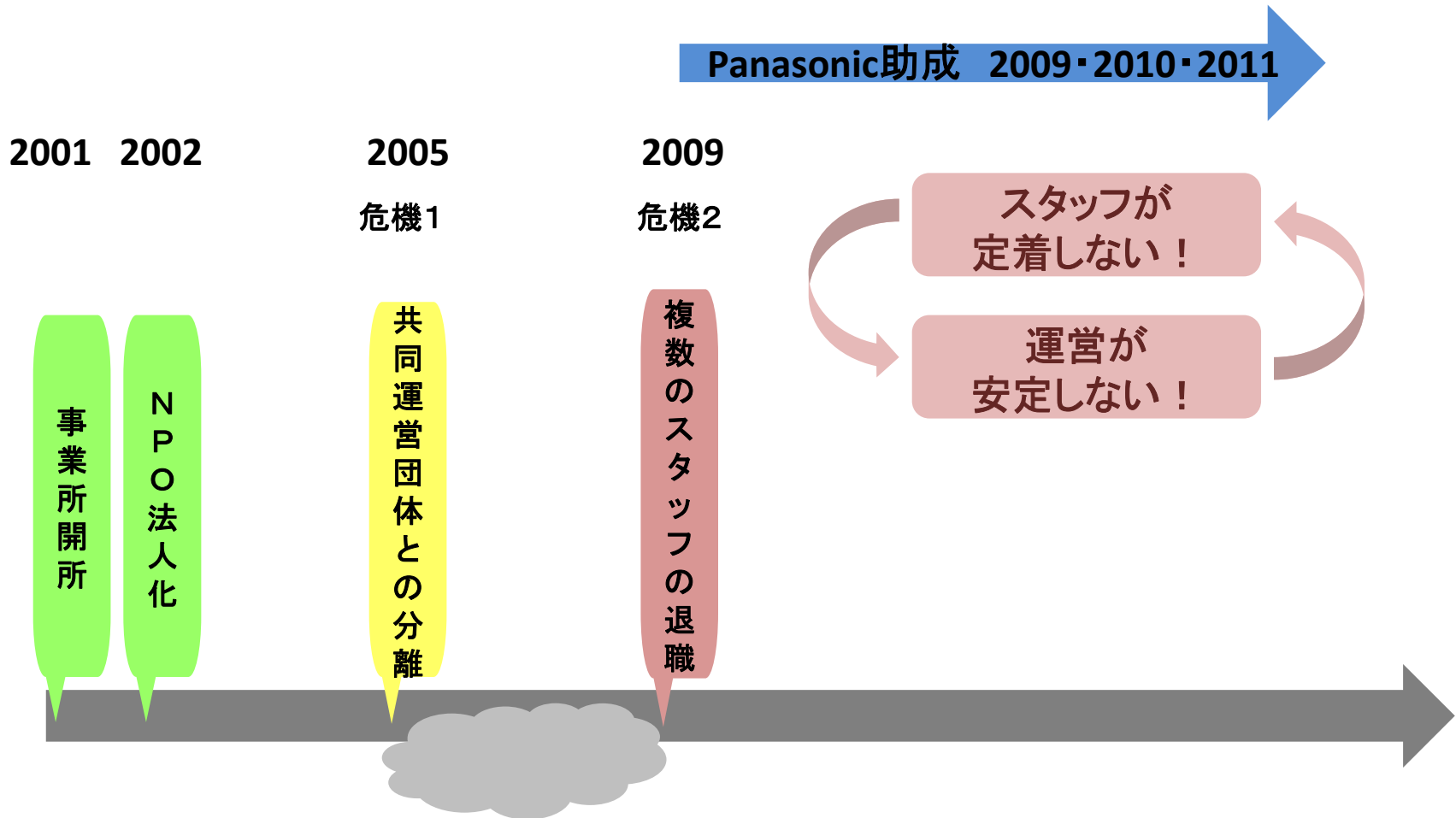
定款には、

- ・センター運営事業
- ・普及啓発事業
- ・研究事業 など

しかし、現実には「手段としてのNPO法人化」
目の前の親子への対応に必死で、
それを疑問にも思わない日々...



組織基盤強化事業実施の背景



目的と目標

持続的に安定し発展していける組織基盤づくり
「ここで育ち、成長し続けていきたい！」と思ってもらえるような
魅力ある組織に…

若手専門家の
育成

人材育成プロ
グラムの作成

普及啓発活動
への活用

3年間の取り組み概要



1年目	6名の育成	試作	スタッフ育成研修会の開催・資料等の蓄積
2年目	11名の育成	改良	研修会開催・資料等蓄積 普及啓発事業の立案
3年目	9名の育成	改良	研修会開催・資料等蓄積 普及啓発事業の試行

1年目 【試行錯誤】

人材育成のあり方の見直し
～OJTへの偏り過ぎを反省～

・日々の臨床場面の見学・記録・実践・教材作成(OJT)

+

- ・内部研修会の開催
- ・外部研修会への参加
- ・他機関見学
- ・レポート、テスト、人事面接等による育成状況の確認



* 3年程度で身につけて欲しい知識
や技術を列挙 →プログラム化

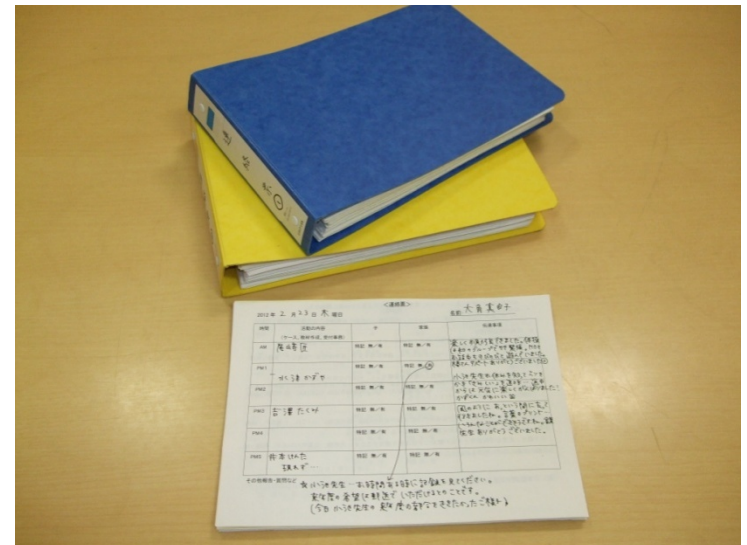
2年目 【育ちあい】

* 引き続きOJT・Off-JT
→プログラムの改良

* 集団の力の活用
→「育ちあい」の重視

- ・共同作業を通じお互いを知る
- ・中堅に教育の役割分担を
- ・連絡票の活用

* 普及啓発事業の計画
(外部専門家育成のための講座)



3年目 【入力から出力へ】

「出力」を重視した背景

- ・若手スタッフの
順調な育成状況
- ・中堅スタッフに与えるべき
課題として

- ・普及啓発事業の準備

→2012.8

教員等向け

「夏期講習会」試行



人材育成プログラムの改良

最初の3年間くらいで
身につけて欲しい
知識・技術のリスト

こちらがどのくらい伝えら
れたかを常勤スタッフ複数
で5段階評価

(この他に自由記述の所
見記入欄あり)

本人が何を学んだ・学びたい
と感じているか、中間面
接で調査し反映させる

NPO法人銀杏の会 人材育成プログラム		名前: A			
よく伝えられた/充分獲得された(5)～まだ伝えていない(1)					
項目	概要	1年目	2年目	3年目	まとめ
<臨床活動>					
発達障害	自閉症圏障害・ADHD・LDの診断基準	2	3	4	診断や症状についてはおおよそ理解済み。今後診察場面の見学機会を設けたい。
	自閉症圏障害の下位分類	2	2	3	
	合併しやすい行動的症状	2	3	3	
	薬物療法の適応	2	2	3	
中略(定型発達・各種検査・認知発達治療・家族支援・カウンセリング・精神医学・他機関連携・福祉などの知識を列挙)					
自己理解	自分の他者への関わり方の癖の自覚	2	3	4	自分の特徴をよく理解し、吐露するようになってきている。
受付業務	電話や窓口での対応	2	3	3	もう少し積極的・気軽に出来るように促してゆく必要あり。
	待合室への配慮	1	2	3	
<運営>					
NPO法人	NPO法人の概要	1	2	2	関心あり、伝達機会を。
主体的な参加	組織全体への関心	2	3	3	雑談をしていると、当団体の仕組みや成り立ちなどについて質問を受けることあり、折に触れて伝えていきたい。
	運営に関わる事務作業	1	2	2	
	運営の仕組みについての理解	1	2	3	
	組織の中での自分の役割の理解	1	2	3	
	組織のビジョンの共有	1	2	2	
スタッフ間の交流	コミュニケーションの大切さ	2	2	3	発信は少ないがよく参加。

人材育成プログラムの 今後の改良点

- * 現在のところ、ほぼ「機密書類」状態
→自分で目標を持って自己研鑽を進める指針にしたり、
人事管理に活用したりできる形に変えていきたい

- * 「一つ一つの項目について最低限知っておいてほしい
ことを記述し冊子化する」という当初の予定は中止
他者から押しつけられるのでは、頭に入らない
一見非効率だが、今後研修会を回り持ちでしながら
資料を蓄積し、「みんなで作った手引書」に…

3年間を通じての成果

- 主たる事業を担う若手スタッフを複数育成したこと
- 育成の仕方をプログラムとしてまとめられたこと
- 作成したプログラムを活かして、発達障害児・者に関わる外部専門家への実践的講座の準備と試行ができたこと
- 組織の内部整備に着手できたこと(特に人事・労務)



成果2

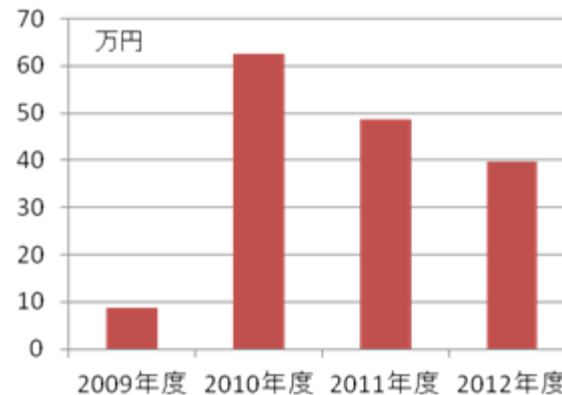
活動をサポートしてくれる人が組織内外に増えていること

- ・賛助会員増(24人→85人)
- ・個人寄付増(8.8万→50万)
- ・講師依頼件数増
- ・活動協力の申し出多数...

- ・事務専従スタッフの産休
→スタッフが次々に
「何か出来ることはありませんか？」



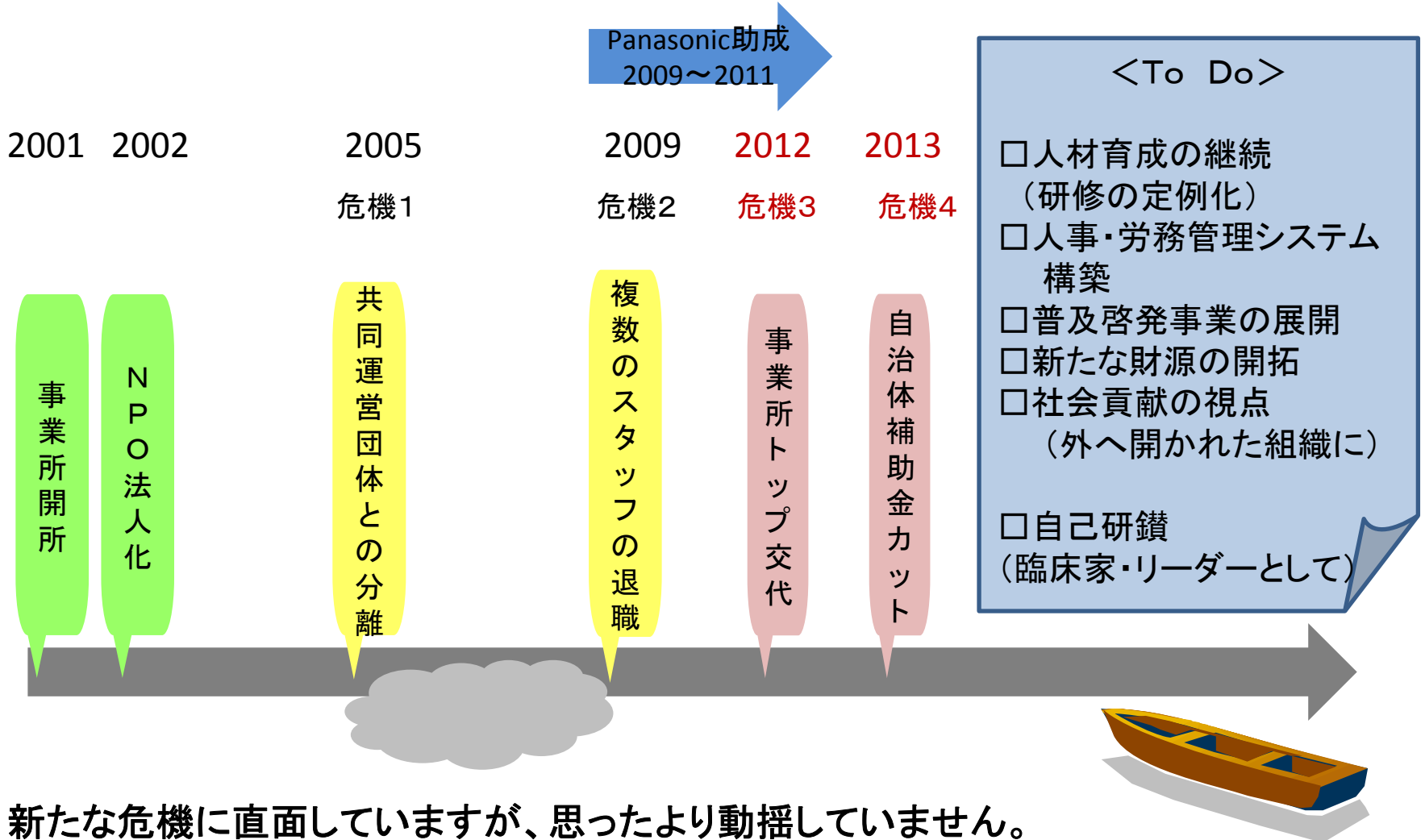
賛助会員数の推移



個人からの寄付金の推移



組織基盤強化事業の今後



新たな危機に直面していますが、思ったより動揺していません。

頂いたサポートを原動力に、頑丈な「船」を作っていきます。ありがとうございました。